

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 58号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2011. 7. 20
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

H23年度

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会総会

日時：H23年6月18日（土）
会場：上井公民館（倉吉市）

出席者：馬屋原事務局長・伊藤・山本・
清水・西浦・菊澤・新川・井上・
東・万木・西上・芳村

H22年度の活動の総括と経過報告及び、
H23年度の基本方針・活動方針が資料に沿って述べられた。

今年度の事業計画について、以下のように予定された。

中四国アドバイザー研究集会徳島大会

期日 9月10日～11日

会場 大歩危 祖谷阿波温泉『あわの抄』
<出席者は7月20日までに、事務局へ連絡すること。>

第1回研修会 10月上旬予定

講師 伊藤肇さん

第2回研修会 12月中旬予定

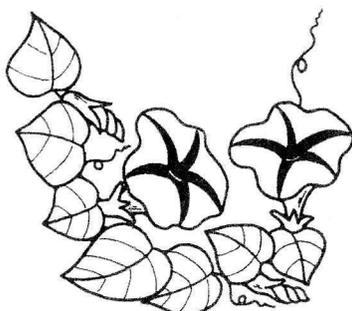
講師 森岡敏人さん

第3回研修会 2月11日（祝）

未定

皆さん、今年度も会員の連携を密にすると共に、アドバイザーとしての資質向上に努めましょう。

会場を『スタンダード』に移しての懇親会は、松原さんも駆けつけてくださって、楽しく過ごしました。



しゃぼん玉飛んだ

菊澤慧昭

『しゃぼん玉飛んだ 屋根まで飛んだ
屋根まで飛んで こわれて消えた
しゃぼん玉消えた 飛ばずに消えた
生まれてすぐに こわれて消えた
風、風、吹くな しゃぼん玉飛ばそ』



幼いころ何気なく口ずさんでいた童謡「しゃぼん玉」は、ごく平凡なしゃぼん玉を飛ばしている情景を歌った歌ではなく、童謡作家・野口雨情が我が娘への思いを託した歌だったのです。

雨情はなかなか子どもが授からず、八年目にようやく授かった我が娘を大変可愛がっていました。でも、その子は二歳の時、病気で亡くなってしまうのです。

それから雨情は悲しみを忘れるために、毎日浴びるように酒を飲み、前後不覚になる日が続きます。自暴自棄になり、何事も投げやりな日々を送っていたある日、夢枕にその子が泣きながら現れたのです。

その涙に濡れた瞳を見て、雨情ははっとして我に返り、「お父さんは、お前の分まで一生懸命生きたと言えるようになるろう。」と決意し、『しゃぼん玉』を書き、『七つの子』『青い目の人形』『十五夜お月さん』など素晴らしい童謡を後世に書き残したのです。

子に導かれて自らの人生に子供の人生を重ね合わせ、かけがえのない人生を二倍にも輝かせた雨情。

裏面に続く

私達も、どんな苦しみに遭おうとも常に前向きに、自らの人生にしっかりと腰を落ち着かせ、親子のきずなを大切にしながら、道を切り開いてまいりましょう。必ず救いは現れるはずです。

時には家庭で子供の言葉に耳を傾け、家族で話し合う時間を持ちましょう。きっと新しい発見があるでしょう。

「May I help you ?」

芳村 恵子

先日、ある小学校から、「キャリア教育」にお招き頂きました。キャリア教育とは、「各分野で活躍されている方々をお呼びし、その職業に関するだけでなく、その方々がどのように夢に向かって努力されてきたのか、様々な人との出会いや関わりなどお話をうかがう中で、その方の生き方に学んでいきたいと考えています。」ということでした。

少々荷の重い感じはありましたが、頼まれれば嫌とは言えないもので、楽しみ半分ドキドキ半分で、引き受けました。

「助産師とは」ということや、助産師としての日頃の仕事を通しての話や、予め、質問を頂いていたので、それに応えるようにパソコンでスライドを作ったり、DVDを準備しました。

子ども達は礼儀正しく、話もしっかり聞いてくれました。

質問の中にこんなことがありました。

「私は、友達が悲しんでいる時にどう声をかけていいか分からなかったり、その人の気持ちが分かって上げられなかったりして、悔しい時があります。芳村さんは色々な患者さんに接する時、どうやって相手の気持ちを分かろうとされていますか。」

私達看護職にとってもエンドレスな想いを、小学6年生が、こんな気持ちになるなんてと、人間としての優しさを感じました。

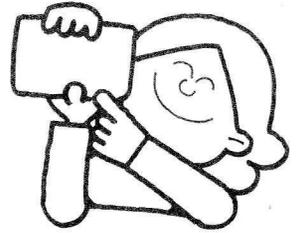
その応答として、相手を大切にしたい方である「May I help you ?」の気持ちで、「聴く」事と、「友達の助けを喜んで受け入れ

る」という、両方のヘルプ上手になることをお話しました。

「May I help you ?」は、以前の職場での合言葉でした。

また私が、助産師として長い間仕事し続けられたのは、家族の協力であったり、職場での友達の支えであったり、何より関わった多くのお母さん方やそのご家族からの「ありがとう」だったこともお話しました。

助産師という仕事の説明だけでなく、生徒さんからの質問に助けられ、何とか私の想いを伝えることができました。



「子ども達からの感想」コーナーでは、次々に手を上げて、感想を語ってくれました。本当に真剣に聴いてくれたんだと嬉しくなり、ありがたくも感じました。

「教えることは学ぶこと」と言われるように、今回に限らず、学校からの出前授業に行かせていただくことで、多くの学びをさせて貰っています。助産師としても、思春期に関わる地域のおばさんとしても、心からの「ありがとう」を言っていただけのように、これからも努力していきたいと思えます。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

何という猛暑でしょう。家の中でも熱風が吹いていて、熱中症は家でもかかることを納得してしまいます。

遅くなりましたが、58号の発行に漕ぎ着けました。次回は、秋風の吹く頃にと思っています。回りの「ありがとう」や、「地域のおじさんおばさん」のご意見をお寄せください。お待ちしております。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(word で入れてください)